

AG5

大連日本人学校の取組

バイリンガル・バイカルチュラル人材の育成を目指して

テーマの設定

A G 5の目標

「日本人学校における
バイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発と、
そのための教員研修のプログラム開発」



大連日本人学校のテーマ

「劇的に変化する国際社会の中で、
生涯にわたって自身の良さを生き生きと
発揮できる子どもの育成」

実態把握（そのⅠ）言語能力

※本当に日本語の能力が高いのか？

★「DLA <はじめの一步>」

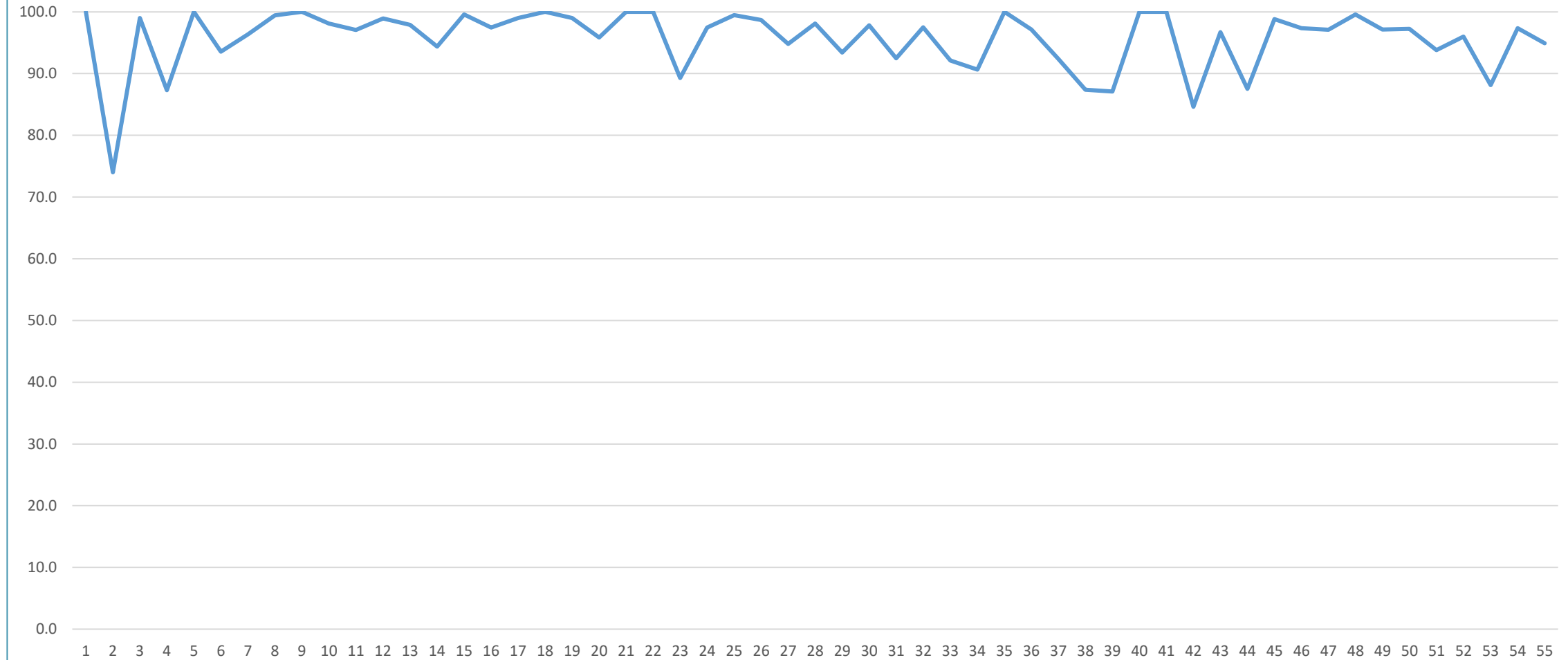
「語彙力チェック」→全校の児童生徒に実施

【結果】

▶ 正答率	小学部 1 年生	85%以上
	小学部 2～4 年生	95%以上
	小学部 5～6 年生	ほぼ 100%
	中学部	ほぼ 100%

語彙チェック結果 (大連日本人学校)

大連日本人学校 各設問正答率



日本語の語彙に関わる実態と課題

【推察】

- ▶ 「語彙チェック」から、
本校において、児童生徒の生活言語の語彙力は
非常に高いことがわかった。

しかし、研修・アンケートによる教員の意見

- ▶ 授業の中で、聞き取りや語彙の活用などについて、
課題が見られる。

→日本語の学習言語の語彙力には課題がある。

実態把握（その2）児童生徒の意識

※児童生徒が「生涯にわたってよさを発揮するために」

→自己理解（自尊感情・自己肯定感）

→他者理解（自他の価値観を尊重し、よりよい人間関係を築く力）

★「自尊感情や学習意欲についてのアンケート」を実施

【結果】

- ▶ 一部の設問を除き、全体的に高評価 → 自尊感情・自己肯定感は高い
- ▶ 小学部低～中学年「すぐにあきらめてしまう」という項目に落ち込み
- ▶ 小学部高学年「すぐにあきらめてしまう」という項目は上向き
- ▶ 小学部中～高学年、中学部と、学齢が高くなるにつれて「表現・コミュニケーション」に対する苦手意識が高くなる傾向

生徒用アンケート

4:とてもそう思う 3:まあまあそう思う

2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

質問項目	評価			
	4	3	2	1
① うれしいときなど、笑顔や表情、身振りなどで気持ちを表すほうだ。				
② 自分は、わりとすぐにあきらめてしまうほうだ。				
③ 友達が話しているときは、最後までしっかりと聞いてあげることが多い。				
④ 打ち明けてくれた秘密を守るなど、友人との約束は守るほうだ。				
⑤ 当番活動（掃除）などで、仕事を見つけてがんばっている人を見るとすばらしいと思う。				
⑥ 困っている人がいると、声をかけて手助けしてあげたいと思うことがよくある。				
⑦ 周田の人に迷惑をかけて気づかない人を見ると嫌な気持ちになる。				
⑧ 自分は、ほとんどのことについて、人並み（ふつう）に上手くやれていると思う。				
⑨ 自分は、家族（保護者）に大切にされていると思う。				
⑩ 授業で学んだことについて、積極的に次の学習や生活の中で活かそうとしている。				
⑪ 学習したことをしっかりと身につけていると思う。				
⑫ 家庭学習にしっかりと取り組んでいる。				
⑬ 日本と中国の違い（文化・伝統・言語など）について、自分なりに理解していると思う。				

※裏面にも質問があります。

14 授業の中で「楽しい」と感じる時はどんなときですか？
下の選択肢から3つまで選び、○で囲みなさい。

☆自分で問題を解けたとき ☆「わかった！」と感じた瞬間
☆先生の話が面白かったとき ☆先生の説明でわかったとき
☆グループで話し合いをするとき ☆ペアで活動をするとき
☆自分が発言（主張・発表）をするとき ☆友人の発言（主張・発表）を聞くとき
☆自分の興味のある学習内容のとき ☆クイズ・ゲームなどの活動をするとき
☆その他（ ）

15 日本の文化のよいところ・好きなどころはどんなところか？（記述）
3つまで、簡潔に答えなさい。

★
★
★

16 中国の文化のよいところ・好きなどころはどんなところか？（記述）
3つまで、簡潔に答えなさい。

★
★
★

【設問について・因子別】

因子1 自己承認感

1 うれしいなど、笑顔や表情、身振りなどで気持ちを表すほうだ。

因子2 自己効力感

2 自分は、わりとすぐにあきらめてしまうほうだ。

因子3 友人関係スキル

3 友達と話しているときは、最後までしっかりと聞いてあげることが多い。

4 打ち明けてくれた秘密を守るなど、友人との約束は守るほうだ。

因子4 美徳的感性

5 当番活動（掃除）などで、仕事を見つけてがんばっている人を見るとすばらしいと思う。

因子6 向社会的行動

6 困っている人がいると、声をかけて手助けしてあげたいと思うことがよくある。

因子7 規範意識

7 周囲の人に迷惑をかけて気づかない人を見ると嫌な気持ちになる。

因子8 自尊感情

8 物事を人並みには上手くやれると思う。

9 家族（保護者）に大切にされていると思う。

因子9 学習意欲

10 授業で学んだことについて、積極的に次の学習や生活の中で活かそうとしている。

因子10 自己評価

11 学習したことをしっかりと身につけている。

因子11 家庭学習

12 家庭学習にしっかりと取り組んでいる。

因子12 中国・日本とのつながりに関すること

13 日本と中国の違い（文化・伝統・言語など）について、自分なりに理解していると思う。

因子13 授業に対する意欲（選択・記述）

14 授業の中で「楽しい」と感じる時はどんなときですか？

下の選択肢から3つまで選んで答えなさい。

（自分で問題を解けたとき）（「わかった！」と感じた瞬間）（先生の話が面白かったとき）

（ペアで活動をするとき）（グループで話し合いをするとき）

（クイズ・ゲームなどの活動をするとき）（発表をするとき）（友人の発表を聞いているとき）

（自分の興味のある学習内容のとき）（その他・記述）

因子14 日本の文化に関して

15 日本の文化のよいところ・好きなどころはどんなところか？（記述）

3つまで、簡潔に答えなさい。

因子15 中国の文化に関して

16 中国の文化のよいところ・好きなどころはどんなところか？（記述）

3つまで、簡潔に答えなさい。

児童生徒意識に関わる実態

【推察】

- ▶ 小学部低～中学年では、すぐにあきらめてしまう傾向にある
→（成功体験が乏しいなどの理由）
- ▶ 中学年以降は、あきらめずに挑戦する
たくましさが増えつつある
- ▶ 中学年以降は、
嫌なことを外に出さず、内面に秘めてしまう傾向が強い

児童生徒意識に関わる課題・必要な資質

児童生徒が日本や国際社会の中で良さを発揮するために

「自分自身の個性や良さを理解していること」

「相手の価値観を理解・受容した上で

自分自身の価値観を尊重し、

よりよい人間関係を築く力」

3つの重点課題

(1) 在籍学級における日本語支援

- ◇朝学習 = 教科学習と関連付けた内容
- ◇視覚的アプローチ = 指示・情報資料など

(2) 日本語で考えや思いを適切に伝える表現力の育成

- ◇表現活動の充実 = 書くこと・話すこと・話し合い等
- ◇思考の視覚化 = 効果的な「対話」をめざす

本校の研修と深い関連

(3) 自尊感情の伸長

- ◇道徳・特活の充実 = 価値観の受容・自尊感情の伸長
- ◇コミュニケーションスキルの育成 = ピア・サポート等



授業実践 (研究授業の実施)

(1) 小学部 1 学年 国語科

単元名「くらべてよもう」 教材名「じどう車しらべ」

授業者：赤地由衣

- ▶ 国語科の目標「『しごと』と『つくり』を捉えて書く」
- ▶ はしご車の『つくり』を付箋に書き、友人と交流（対話）
- ▶ 「わたしも同じです。」の「～も」を学び、活用する。
→読み取りを深め、学んだ語彙を実際に活かす効果
(より確かな定着)



授業実践 (研究授業の実施)

(2) 小学部4学年 国語科

単元名「リーフレットを作ろう」 授業者：佐藤静子

- ▶ 国語科の目標「リーフレットについて、
良い点や改善点を伝え合う」
- ▶ 良い点を黄色い付箋、改善点を白い付箋で伝え合う
- ▶ 他者の意見を聞き、自分の考えを深める
→立場や考えを視覚化し「対話」をより効果的に行う

授業実践 (研究授業の実施)

(3) 小学部 6 学年 国語科

単元名「自然に学ぶ暮らし」 授業者：馬淵奈央人

- ▶ 国語科の目標「交流の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」
- ▶ 意図的なグルーピング
- ▶ 役割分担の明確化
- ▶ 色画用紙を活用した児童の意見の視覚化
→効果的な「対話」により、自身の考えを深める

授業実践 自尊感情・コミュニケーションスキル

(4) 中学部 特別活動

ピア・サポートのトレーニング

授業者：北村雅俊

▶ エゴグラム

→エゴグラムを活用し、自分の性格・友人の性格を理解

▶ プラスのストローク

→相手をほめることの有用性を理解 = 表現方法・自己肯定感

▶ 傾聴

→他者を意識して積極的に「聴く」ことを理解

▶ 怒りの温度計（アンガーマネジメント）

→自分の感情を理解・管理し、適切に伝える

授業実践 自尊感情・コミュニケーションスキル

(4) 中学部 取り組みの成果について

中学部の「総合的な学習の時間」の発表会に向けた取り組み

◇日本語の学習言語能力に課題がある生徒

→「言葉にこだわり時間がかかる」＝「時間をかければできる」（自己理解）

→国語科をはじめ、授業の「対話」から言語が定着＝自信につながる（自己肯定感）



「好きなことに打ち込んで、楽しく豊かな人生を送る」
という理想の生き方（将来の夢）を発表

次年度に向けた課題

- ▶ 「語彙を学ぶ学習」と教科学習との関連付け
→朝学習などと授業内容の関連付け
- ▶ 支援の「視覚化（見える化）」の整理
→視覚教材・指示や留意点・児童生徒の思考
- ▶ 道徳・特別活動の充実
→より効果的な学習活動
(さらなる実態把握の上で)